

自序

私は支那事變が起きてから十數回支那を視察した。最初は昭和十二年の十月で、最近は昭和十五年の三月である。その間或は北支那に或は中支那に、或は南支那に旅して、一、二回を除いては、旅日記を旅舎の机により、或は途中の汽車、汽船の中で書き綴つたのが、一冊子を成す程になつた。この視察記は其時々眼に觸れ耳に入つたのを其まゝ書きつけたのであるから、別に系統立つた記述でなく、その内容も社會、政治、經濟、文化、外交の各方面に互つてゐる。従て纏つた參考にはなるまいが、事變三ヶ年の経過を通して、支那に於ける種々の事態がどう變つて來たか、殊に支那人心理の動きについては大に注意した積りである。そこで視察記も年代の順に並べ、内容については何の修飾も加へなかつたのは、その時々状態や、支那人の氣分の

動きを共まゝ出す積りであつたからである。硝煙尙消えやらぬ北支、中支の
 状勢から、建設に進む苦難の過程を経て、新政權樹立までの期間が本書には
 含まれてゐる。その意味で本書が何等か貢献し得る所があるならば、著者の
 大に幸甚とする所である。

昭和十五年初冬

著者識す

目次

一、事變直後の北支那(昭和十二年十月)	………	三
天津の町	………	三
外國租界	………	五
天津の言論界	………	六
豫防注射	………	八
日支合辦	………	九
支那人の評判	………	二
外人學校	………	三
新政權に躍る人々	………	三
治安維持會	………	七
經濟對策	………	〇
北支の棉花	………	三

天津から北京へ	三
北京の町	五
教育問題	七
北京から天津へ	六
支那人を馭する法	九
防共と支那人	三
保安隊	三
大沽港	四
支那人の意見	四
租界	四
北支の復活	四
二、北支から中支へ(昭和十三年二月)	四
北京へ	五
天津	四
長沙のラヂオ	五

新政府の人々	五
經濟開發	五
舒服	五
上海上陸 第一步	五
日本人町	五
南市見物	五
外國租界	五
南京行	五
南京	五
江灣鎮	五
上海を去る	五
上海の日本人	五
上海の工場	五
上海の通貸	五
上海の取引	五

中支新政權	107
上海の新聞界	108
中支の經濟恢復	109
雜感	110

三、二度北支を訪ねて(昭和十三年五月)

フランスとイギリス	110
都市計畫	111
黃道吉日	112
京津と鄉村	113
北支建設	114
臨時政府	115
支那軍	116
河北の匪賊	117
新法幣	118
全壞了	119

國民政府の内情	120
北支の經濟祝祭(昭和十三年八月)	121
山なす堆貨	122
今年の收穫	123
幣制	124
雜感	125

五、上海八日記(昭和十三年十月)

二度上海を訪ふ	126
十月十一日	127
十二日	128
十三日	129
十四日	130
十五日	131
十七日	132
十八日	133

六、北支建設の歩み (昭和十三年十二月)	五
支那人の心理	五
先づ北方より	五
文化建設	五
農業建設	五
治安工作	五
經濟建設	五
政治建設	五
雜見	五
七、北京と天津 (昭和十四年三月)	七
天津租界	七
今事變の特性	七
京津間の列車	七
新民會	七
難民救濟	七

北京での茶話	六
租界封鎖	六
八、北支の諸問題 (昭和十四年九月)	六
天津の水害	六
北支の食糧問題	六
北京の日本化	六
九、中南支の視察 (昭和十四年十月)	六
上海上陸	六
中支の農村	六
新政權と上海人	六
南京路	六
上海より南京へ	六
南京の町	六
南京から上海へ	六
上海の工業	六

上海の通信	三
上海を去る	五
臺灣管見	七
厦門	九
ロロン島	三
厦門と華僑	五
十、新政權誕生頃の中支(昭和十五年二月)	六
租界問題	六
上海の通貨	三
民食問題	三
經濟事情	五
支那人と新政權	六
上海の日本人	三
漫畫と支那人	三
北支と中支	三

新 支 那 を 観 る

ら質問があつた場合には、かうしたことをいふから今回のやうな事變が起るのだと説明するやうになつてゐるらしく、然しづれば改訂の教科書が出来るとしい。大學に對しては慎重な態度を取り、南京政府管下の國立大學及び抗日の果になつてゐたものは全く閉鎖され、他はぼつ／＼開くことになり、四つばかり開校してゐるが、一般には經費難と、教授學生がゐないので未だ開かれてゐない。

天津の方では北京と異つて非常に厳格な方法を採用し、排日の中心をなした南開大學は閉鎖され、中學以上は未だ開校に至らず、小學校の方も先づ改訂の教科書を造り、教員の悪いのは罷免し、其の他は再教育し、此の頃漸く小學校を開いたので、此の方法でぼつ／＼中學も開くらしい。天津の方の考へでは、南方の排日教育が事變の起りであるから、これを徹底的に潰さんとするにあるらしく、殊に委員長の高凌霨は、支那學を修めてゐるから、南方の教育は頭から氣に喰はないのである。それが教育の問題にも這入つてゐる。

田舎の各縣の方の教育は大した問題にもならないらしい。といふのは、今までが既に新しい教科書を使つてゐるのは少く、多くは千字文だの四書等を用ゐてゐる所が多いのである。

北京から天津へ

北京滞在數日にして又天津に向つた。北京の町と事變とを考へ合せて見ると、他の町が戦が起れば打撃を受けるのに、北京は民國以來、二、三年に一度位は銃砲聲を聞かない時はなく、少し永く北京に住んでゐる日本人は、一度位は皆銃砲彈の洗禮を受けてゐる。時には戦ひが無いと北京の町は繁昌しないといはるゝ位で、北京のホテルで受ける感じは、東京よりも却つて平和な氣持で、天津のやうに飛行機も飛ばず、至極のんびりとして、かうしたことは慢性の北京人は、一向に事變等といふことは感ぜないらしく、民國以來幾度か興亡が繰返され、種々の勢力が入つて來ただけに、日本軍が入つて來ても少しも驚かず、たゞ自動車が多くなつたので、呑氣に町を歩いてゐた支那人が、多少眼をきよつつかせる位のもので、昨年來た時よりも却つて活氣づいてゐるやうに思はれる。時局で肥る北京と疲弊する天津とは面白い對象をなしてゐる。

支那人を馭する法

或る支那の有力者を訪ねた所が、日本人の支那人に對する遣り方に就いて次のやうな話をした。これも大いに參考になるだらうと思ふ。

支那人を馭するの法としては、種々の問題があり議論もあるだらうが、最も單簡なものとし

ては、一言でいへば、「面子と利益」とである。日本人は支那人の顔を立てることを考へないで、支那人として引受けられないことを要求する。即ち支那人側の立場をもつと親切に考慮してやる思ひやがない。又支那人に対しては、其の時々に小利益を興へて行かねばならぬ。そこを日本人は餘りにはつきりし過ぎる。綺麗にし過ぎるから支那人には儲けがなく、支那人が相手にしなくなる。

又日本では支那人を親日派とか、歐米派とか、親露派とか、段派とか直隸派とか、餘り嚴格に決めてしまふから直くない。こゝに非常な間違ひも起つて来る。支那人は決してそんなものでなく、何派と稱せらるゝ人之間にも、密接な關係が無く、又利害の異なるものもあり、たゞ或る時期に利害が一致して協同したことがあるに過ぎない。従つて他派に屬する人々の間に却つて同派と稱せらるゝ人々よりも親しいものもあり、一人で種々の派の人々と關係があつたり、種々と變つて來てゐる。例へば天津治安維持會の總務局長孫潤宇の如き、始め曹汝霖派と見られてゐたが、次で高凌霨派となり、齊燮元派となり、今では獨立派となつてゐる。これに似た例は幾らもある。これを或る昔の關係からして、或る派と定めて處置するのは非常に危険である。日本人は一度決めるど何時までも札を付けてしまふ。排日も親日も自由に轉換し得るのである。支那の政狀の變化により、其の人の關係や思想等も刻々に變化してゐる。それに自ら直接知り

もせず、人の話を聞いて勝手に決定し、或は他の方面の中傷や何やで輕々に定むるのは大なる弊害がある。これによつて排日家を製造したことは決して少くない。而も日本人は一度決めると決して改めないから困るのである。

防共と支那人

日本で防共は却々喧しいが、それでは支那人が此の問題に就いて如何なる考へを有つてゐるかを、各方面について當つて見た結果は、大體次の三つに分つことが出来る。

一 南方資本家系統 天津の財界は南方系の資本家に握られ、今日に於ても同じであるが、彼等は其の立場からして、赤化には最も恐れを抱いてゐる。彼等の意見としては、南京政府は明らかに赤化の傾向がある。それは最近の新聞を見ても明らかである。例へば南京に共產黨の首領周恩來が乗り込んで來たこと、又人民戰線派の巨頭沈等が捕つてゐたのを釋放したこと、共產黨の首領陳獨秀の釋放等、擧げ來れば幾らもある。今後ともだん／＼赤化の傾向を強めるであらう。殊に戰局が進んで國民政府が南京から逃げ出すやうなことになるれば、國民黨の中の過激派分子と、共產黨とが一緒になり、それに敗殘兵と土匪とが一緒になり、農民軍が動員され、奥地に移つて大いに赤化するだらう。日支間の戦ひは其の中に解決するだらうし、戦ひが一段

るといはいれ、經費の支出が一つの大きな問題である。ために昨年頃までは、單なる一つの案として、研究されてゐるに過ぎなかつたものが、白河が急に埋まつたために、現實の問題として現はれて来るやうになつた。

支那人の意見

天津、北京にある支那側の現在表面に出て居る最も有力な人々と會見したが、其の意見は日本側にも参考になると思ふから、左に紹介して見たいと思ふ。然し名前を出すことは先方の迷惑を憚つて預つて置く。

A 氏

一 國民黨の連中は學問がない。彼等の知つてゐるのは、組織とか計畫とかでかうしたものは學問ではない。又今日の技術の學は藝術であつて學問とは別である。此の學問の力がないからやる事が出鱈目である。

二 今回の事變は國民黨の排日教育から來てゐる。統一の手段として排他的の教育を行ふことは一つの邪道である。すべての改革も根本は教育であるから、先づ教育から始めねばならぬし、教育を改めることが第一である。

B 氏

一 此の時局をどうするかといつても、もう少し戦局がはつきりせねばならぬ。更に日本が上海まで、止つて南京政府を残して置いて、これを相手に交渉するか、それとも南京を潰すかが決定しなければ、北支那ではどう動いてよいか判らぬ。南京があれば其の支配下に何か造らねばならず、南京が無ければ何んでも出来る。

二 思想的には、最も基礎をなしてゐる小學校教育から改むべきだとする所はA氏の意見と同じである。

三 日本の從來の遣り方を見てゐると、すべてが小さく、狭く、且つ獨斷的である。もつと大きく、廣く、且つ相手の立場も十分に考へてやる雅量を要する。

四 支那の財政は貿易がなく、何も買ふものがなく、銀の流出がないから破綻しない。孔祥熙の借款は武器買入れの支拂金を延期した形を取つたもので、普通の借款なら巧く行かぬが、かうした方式を採つたのは巧妙である。

五 支那は五箇年間の抗日により統一を完成した。こゝまで支那が統一したのは日本のお蔭である。日本は自己の遣り方で支那を統一させて、統一が完成した時に事變が起つたため、支那は統一完成の力により抵抗し、豫想外の頑強な力を示してゐるのである。

六 日支相争ふことは、東洋の立場からは甚だ不利であつて、これを見て喜んでゐるのは外國人であらう。歐米人から見れば、日支が結合して居れば、彼等は優すことが出来ないから、日支を離間し戦はしめんとする。日支は宜しく結合して白人の侵略に當らねばならぬ。

七 日本としては爲すべき數々のこともあるだらうが、第一に北支那でやるべきことは、國民政府の逆宣傳が大いに利いて居るから、先づ民心を得ることである。民心を得る具體的方法としては、北支那民衆が最も悩まされてゐる水害の救済であつて、今年の冬には餓死者も出るかも知れないし、春播く種子さへも無いのである。

八 日本の施設には、支那人が見て、成る程と思ふことをやるべきである。日本の遣り方が成る程とらなづかるゝものならば、民心も自然に和らいで來るだらうし、南方の連中も歸つて來るだらう。従來北支那で政治、教育、實業の各方面で活動してゐたのは主として南方人であるが、彼等の少からざる部分が、今度の事變と共に南方に去つて居る。彼等の存在は北支那で種々の仕事をするのに必要である。

とにかく日本の遣り方は、獨善的で宜くない。廣く各方面の意見を容れねばならぬ。日本式に餘りガツチリやられると、支那人のやうに融通の利く國民は、これを好まないのである。

九 日本人が使つてゐる買辦が排日になるのは、日本人が餘りガツチリして儲けられないか

38

らである。

十 日本留學生が排日になり、歸國後日本側とすつかり縁が切れるのに、歐米留學生が何時までも關係を續けてゐるのは、日本側の遣り口が拙いからである。日本では留學中に世話して偉い人に會はすることをしない。近い例が友人某氏の如きは、留學中に日本の相當の人々に接觸し、其の後も日本に行つて待遇されたため、今日に至るまで日本軍に對して非常に同情と尊敬を有つてゐる。然るに多くの留學生は、日本で冷淡に取扱はれてゐるし、地位ある人は顧みない。所が外國人は能く留學生を世話もするし、卒業しても學校の研究雜誌を送つて來るから、長く關係が續くし、支那人には博士號も簡単に呉れるから、博士號があれば支那で出世が樂である。所が日本人は拘子定規で仲々呉れない。

39

C 氏 (實業家)

一 日支の戦を一日も早く終結したい。など考へてゐることはそれだけだ。

二 萬事は戦ひを止めてから後に考へたら宜いのである。

D 氏

外人はパンの中だけ食つて、側は支那人にやる。支那人も亦同じやうなことをやる。所が日本は資源が少く、それに産業が發達してゐるから、飽くまで合理化し、一錢一厘でも嚴格にして

外國と競争して勝つて來たのだから、無駄と不合理が極度に排除されてゐる。所が支那にある外國人は皆買辦を置いてゐる。それとの契約内容は種々異つてゐるが、外人のものは一般に包括的で、支那側の商賣は一切買辦に任せ、其の技倆によつて買辦はいくらでも儲かるし、外人は一定の値を定め、外人の方が却つて一定の分量だけ儲けるから、外人よりも支那人の方がうんと儲け、金持ちも少からず、社會的の勢力もある。所が日本人は細かい精密な契約を定め、一寸の隙もないから買辦は僅かの手數料でやつて行き、甚だしきは一使用人に過ぎないので、大した金持ちや勢力家もない。これが日本人が支那で外國人と競争し得る強味であるが、支那人からは歓迎されない遣り方である。これは商賣だけでなく、政治方面でも同じことである。

40

尙少數者の考へは、日本に負けても決して戦ひは止めない。抗日気分は尙ほ一層強くなるだらうと見てゐる。要するに一般には上海の戦鬪を非常に注目して居るし、上海で支那軍が負ければ負けたと觀念するらしい。此の方面の戦鬪が如何に敏感に響くかは、十月初め南京のラヂオ・ニュースが、上海に於ける支那軍の逆襲が成功したと報ずるや、北京の治安維持會の某局長は、委員を伴ふて各國大使館を巡つたといはるゝ位で、他は推して知るべしである。

租 界

今度ほど租界の問題が日本に痛切に響いて來たことはない。支那側で租界回收の問題が起つたのは古く、獨露嶼三國は既に早くこれを返還し、白耳義もこれに倣ひ、英國も漢口、九江の租界を捨てたが、其の他の主要租界が保持されたのは、日本の頑張りによる所が少くない。所が今度といふ今度は、其の租界のために、天津でも上海でも、どれだけ日本が手を焼いたか、こゝに日本は租界といふものについて、眞剣に考へ直さねばならぬ時機に到達したのである。そこで今回の事變で日本が租界のために蒙つた種々の迷惑について、天津に於ける二、三の實例を擧げて見よう。

外國人が租界の城廓内に立て籠つて變なことをやるために、日本が不便を蒙つたことは、實に攻撃に邊ない程である。即ち支那人は外國租界の庇護下に、こゝを根據として種々のことをやるが、全く手の着けようがない。各種策謀の本據は皆外國租界の安全地帯にあり、前にも述べた小報せうほうと稱する小さい半切れ新聞が、幾十種となく發行されて人心を攪亂してゐるが、それは凡て外國租界で印刷され發行されてゐる。又支那一流の凡有る謠言は、數知れず毎日流れ出してゐるが、それはすべて外國租界に源泉を有つてゐる。又外國租界にある學校では、相變らず支那人に猛烈な排日教育をやつてゐるが、これを如何ともし難い。外人教會では支那人のために日本調伏の祈禱が行はれてゐるといはれてゐる。

41

ないので、適宜な地方税を造るのに一生懸命で、未だ他を顧みる邊がなく、目下運轉してゐるのは市政府位のものであらう。此の悩みは縣政府も亦同じである。縣の収入は村の方で取つてゐて、縣には這入らないらしく、僅かな収入で支へてゐる。そこで縣知事の収入も、天津縣あたりは月に三百圓も取るが、田舎の方は月給百圓位らしい。勿論支那のことだから内證の収入は相當にあるといふ話である。縣の財政を天津縣について見るに、昨年度の歳出入が共に十四萬元ばかりで、其の中に三萬元位は上からの補助費、残り十萬元位の中で、五、六萬元が附加税及び雑捐收入、五萬元位は縣財産の收入であるから、税捐の収入がなくても、財産收入があるから助かるが、これがない縣は全く困るのである。縣の支出で最も大きいのは治安のための警察即ち保安隊の費用である。

60

記事が少し横道に外れたが、以上のやうな事情がある所に、これを實行するとすれば、第一に治安の恢復が必要である。所が未だ前線は戦争に忙しくて、治安に専念するに至らないが、内部には相當に多くの土匪、敗殘兵を含んでゐる。これは地方の警察や村の自衛團の手には負へない。そこで治安部長の齊藤元の方では、冀東で集めた六千人の保安隊に、更に二千人を新に募り、八千人で省の治安に充てる積りらしいが、冀東の分は餘り性質が良くないといふ話らしく、又八千人位では河北全省の治安には勿論足りないと思はれるし、經費殊に武器、彈藥

の供給もせねばならず、これも種々な都合で急には行かないだらう。何をいつても國が廣いから、日本人が考へたやうに性急には出来ないことである。

日本では北支の棉花を盛んに視つてゐるやうだが、昨年は大洪水で三分作の減收となつたが、本年もどうやら怪しいやうである。それは昨年の大洪水の慘禍が未だ残つてゐるといふことも一つで、未だ三分の一位は水が退かないし、又水が退いた部分も種子が無い。然し種子は何んとかして手に入るだらう。第二は昨年はアメリカ棉の大豊作で、棉の價格が暴落し、棉花栽培者は大に不利を蒙つた。現在奥地の農民は、生活に窮し昨年收穫した棉花を賣出してゐるが、日本政府が支那農民救済の意味から、苦しい財布の中から、棉花資金數十萬圓を出したが、農民は苦しいので、天津の棉花相場の三分一位の値で賣放してゐるが、その辯は誰かが儲かつてゐるだらう。これに反して穀價はぐんぐん騰つてゐるし、かうなれば先づ食糧品を作らねばならぬから、恐らく今年の棉花栽培は著しい減少を見るのではないかと思はれる。

61

舒 服

日本人の支那人統治について、最も難しいのは支那人の心理を摸むことであるが、これについて支那人と種々話してゐる間に、次のことが話題となつた。それは文化は各種の経路を取つ

て變遷して行くもので、支那は四千年の長さを持ち、恰も年を取つた人のやうに、心理が複雑になり世間ズレがしてゐるが、外の國のものも、數百年か千年もしたならば、支那人の心理や習慣に近づいて来るのではなからうかとの説が出た。其の説によると、今日は世の中の動きが早く、少年と老年とは大きな差がある。進化は必ずしも合理的にばかりも進まず、或る一面では結局支那人がやつて居る所に行く傾向がある。人間一個の嗜好の變遷のやうに、小供の時と青年、壯年、中年、老年と變るやうに、世間も亦變つて来るから、青年を以て老年を笑ふことが出来ないやうに、世界も亦支那を笑つたり輕視したりすることの出来ないものがある。

支那は長い歴史を有つてゐるだけ、目に一丁字なき農夫や苦力に至るまで、其の考へ方は非常に複雑である。日本人から見れば、全く相反すると思はれる幾多の性格を有つてゐるが、これは支那人の性格の複雑なことから起る支那人の特性と見られるのは、一つや二つでなく、數多くある。そこで簡單直明な性格を有つ日本人が支那人と接觸するといふことになれば、種々の問題が起つて来るのである。其の一つは日本人が數多くある支那人の特性の一部、甚だしきものは一つか二つを捉へ、それを以てすべてであるやうに考へ、獨斷的に萬事を其の一つか二つで押し切らうとする。例へば支那人は金さへやればどうでも片付くと考へたり、支那人は拳骨でやる外ないといつたりする。其のために時に非常な見當違ひをすることがあるが、支那人の特

62

性の種々の場合を精密に考へて見て物事に判断を下すことが必要である。

他の一つは支那人の性格が複雑であるために、日本人にはどうしても探り當てられない支那人の心の奥の深さがある。支那人の心の深さが百尺あるならば、日本人には三十尺か四十尺しか分らず、尙ほ未知の部分が六十尺か七十尺も残つてゐる。そこで日本人から見れば、支那人のやることはどうも分らぬといふことになり、又支那の動き其のものにも分らない所が出て来る。支那人の心理が分らないから、支那人を治めるとなれば難しい所が出て来る。或人は頭の簡単な日本人に複雑な支那人は治められないといつた。これも一理ある。

四千年の長年月は、支那民衆の生活の上にも、或る種の非常な進歩を齎した。支那料理が世界で最も進歩したものであることは衆人の一致した意見である。その進歩の極は物の渾然たる調和融合にある。一つ一つの物を別々に食ふよりも、これを一緒に煮て喰つた方が滋養もあり美味くもあるといふことを發見するだけでも、人類は一千年の經驗を要したといはれ、こゝに調和の第一歩が生れた。次に此の數種の物を煮るのに、各種の調味品を用ふることにより、一層の滋養と美味を加ふることが研究され、第三には各料理の配合順序の調和に向つて進み、此の三つが渾然融和したのが支那料理である。

63

所が支那人の享樂文化は更に一步を進め、料理、賭博、阿片、女等のものを更に一體の渾然

融和體に造り上げた。此の點は日本人でも氣付いてゐない人が多いやうである。女の問題はこゝに書くことを憚るが、其の他のものに就いて少しく述べて見ると、日本人は麻雀でも勝敗に夢中になつてゐるが、麻雀も勝敗に夢中になつてゐるのは初歩であり、其の眞髓を解しないものである。支那人は氣の置けない五、六人で麻雀をやリ、一人か二人は豫備があるから、疲れると途中で休んで隣の部屋に行く、するとそこには阿片を吸ふ準備をしてあつて、ゆつたりした氣分で阿片を吸ふ。女等も居る。これで疲勞を恢復して又始める。それ等の調和によつて、彼等は陶酔郷に浸る。又料理を喰つた後には準備された部屋に行つて阿片を吸ふ。食事も亦非常に考へたもので、夜遅くなつた時には消化し易いもので疲れを恢復するやうなものを選び、冬は温まり、滋養があるもの等で、食物と麻雀、阿片等が巧く調和を取つて、そこに生活享樂の極致を發揮し、陶然として此の世ながらの極樂境に浸り、部屋の構造も着物も亦さう出来てゐる。かうした境致に居るから、日支事變が起らうが世の中がどうならうが、此の境致を破らなければ文句はない。貧乏人は貧乏人で各々自己の境致を樂んでゐるし、「壺中自ら天地あり」である。此の境致を名づけて支那人は「舒服」(居心地が宜いといふやうな意味)といふ。これが支那人のすべてが追求して止まない最も大事なもので、此の境致を興へさへすれば満足し、これを侵さへせねば不平はいはない。「安居樂業」といふのも同じ意味である。そこで日本人

が餘り親切が過ぎると支那人の方では「不舒服」になるから喜ばない。今後日本人が支那人に臨むには、此の「舒服」の二字を忘れてはならない。

上海上陸第一歩

六日の朝、眼を覺して見ると、船は黄色に濁つた黃海を走つてゐる。やがて兩側に遙かに揚子江の河岸が見え出し、間もなく吳淞から黃浦江に入つた。壊れた家が見える。吳淞から上海までの間は、敵前上陸のあつた激戦地だけに、完全な家は少い。楊樹浦まで來ると、工場がずらりと河岸に並んでゐるが、建物は全體壊れてゐないが、煙も見えず、ガランとして空家のやうな感じがある。船は間もなく埠頭に着いた。前日までは五月頭のやうな陽氣であつたさうだが、此の日は空が曇つて薄ら寒く、冬に逆戻りしたやうな天氣であつた。幸に友人が迎ひに來て呉れてゐたので、自動車で日本人の多く住んでゐる其の住所まで行つた。途中の町々の家の壊れて居ること、住む人もなく空家になつてゐること、人通りもなく死の町と化してゐるのを見て、豫想以上の有様であると感じたが、此の感じは其の後益々強められた。友人の住所に一應落着いて、方々の旅館に電話をかけて見たが一軒も空いた部屋がなく、たうたう宿が無くて友人の家に厄介になることにした。實際事變後支那を旅行して困ることは宿の無いことで、知

れてゐる。そこで蒋介石としては、今日では長期抗戦により、是等の反蔣運動を抑へ、それにより國內の統一を續げんとしてゐる。蒋介石と英國との關係は益々密になつて行くやうであるが、西南派との關係はどうなるか分らぬ。抗日戦をやつてゐる間は、西南派も蒋介石と行動を共にしなければならぬが、漢口、廣東が落ちた後に、更に抗戦を續けるとなれば、蒋介石としては軍費を賄ふ上から西南にある利権を英佛等に賣り渡す外はない。これは西南派として堪えられないことであらう。その關係が將來どうなるか、大きな問題である。聯ソ派と英米派との關係も、必ずしも内心から一致してゐるとは見られない筋がある。又共產黨と蒋介石派との關係も前に述べたやうに順調に進んではゐるが、これは抗戦を目標としての一致であつて、國內問題に於ては必ずしも一致せず、寧ろ西南派と共產黨との關係の方が、共產黨と蒋介石との關係より、より密であることは間違ひないやうである。漢口陥落後に至つて、是等の關係がどう現はれるか、大に注目の要があるだらう。

150

日本の攻略した地域は甚だ廣い。然し率直にいへば、是等の地域の建設は未だ全く手が着いてゐないといつても宜い。然し此の廣大の地域の始末は甚だしく困難であると豫想される。其の難點は至る所にあるやうだ。これには大なる努力が必要である。然し何よりも前に日本の政府がしっかり肚を決めることが必要であらう。現地では一層其の感を強くしてゐるやうである。

六、北支建設の歩み (昭和十三年十二月)

支那人の心理

事變以來一箇年半にもなるので、この間に支那人の心理にも種々の變化を來したやうである。匪賊が北京、天津の郊外にも相變らず出没してゐるに拘らず、人心は以前に比して稍々落着きを示して來たことは事實である。事變直後に較べて、天津市内の如きも、昔の状態に歸つたやうで、フランス租界の鐵門が却つて時勢に取殘された觀がある。然しそれかといつて、支那人が親日的になつたとはいへない。支那人は大勢順應の國民である。此の際だからといふ氣で、表面巧くやる位の靈寶は皆持つてゐる。こゝ一箇年半の間に、二つの相反した空氣が、支那人の間に流れ始めた。一つは抗日であつて、事變後一方では抗日の力が却つて強められたことは事實である。事變の始め浮動してゐた民心は、南京陥落後は抗日の方に腹が据つた。武漢陥落後は長期抗戦の態度に變つた。國民政府の宣傳もこれには大いに効果があつたのは勿論だが、日本側で其の原因を造つたことも決して少くない。心からの親日家といふものは却つて滅つた

151

かも知れない。然し一方には又非常に良好な現象が現はれて来た。それは一般支那人の間に、抗日の感情は感情として有つてゐながら、支那が抗日を永年の政策としてやつて来たことは、どうも間違つてゐたらしい。それは日本も困るが、支那のためにも宜くないやうだとの空気が、最近北支では漸く生れつゝありといはるる。又支那の識者の意見は、日本の識者の意見と殆ど一致するものがあり、支那が日本と戦ふことは全く歐米人の術策に乗ぜられたものであり、長期抗戦により日本の国力が消耗され、支那の破壊が進むことは取りも直さず東洋の力の消耗であり、欧米人の東洋制覇を確實に且つ永久にせしむるものであるから、何んとかして一日も早く日支の関係を正常に復し、日支結合して東洋の安全を計るべしとなしてゐる。又今日抗日派の中堅をなしてゐる分子に、眞の親日派が存在してゐることは否めない。彼等は日本と眞に親善を欲するがために最も強く抗日をやるのだといつてゐる。此の言は一見矛盾してゐるやうであるが、そこに支那一流の哲學的論據がある。彼等に云はずれば日支が眞に提携するには、日支が各々獨立の人格に於てしなければならぬ。然るに最近の日本は、自己の強きを恃んで支那を愚にし、支那を屬國的に取扱はんとしてゐる。これでは提携は出来ない。それは日本が支那の近年に於ける發達を知らず、相變らず、支那を馬鹿にしてゐる。これは實際支那の實力を現實に示す外はない。其のために支那は國を擧げて戦ふのだ。日本にそれが分れば何時でも戦を

止めるがそれが分らぬば何時までも戦ふといつて居る。かうした種々の複雑した気分が、支那の國內には流れてゐるのである。

然し一般青年の空気が寧ろ感情的に抗日である。此の感情で動くのが最も恐るべきもので、北京の學生教授は共產系分子はもとより、抗日的のものはすべて南方に去るか、共產軍に投じ、土匪軍の指揮官にも學生が當つてゐると云はれ、残留してゐるのは温順しい連中はかりである。今でも依然として南方に去るものはあるが、南方から歸つて来る氣勢は未だ見えないといつて居る。青年の徒は、抗日のためには戦線に至り、或は遊撃隊となつて生命を捨てることを敢てし、彼等は又日本に屈服するよりも、寧ろ英露の奴隷とならんと公言して居る有様で、かう感情的になつては理論を説いても却々難しく、支那の識者も大いに困つてゐる。かうした空気の途中で、如何にこれを宜い方に轉換して行くか、政治工作の主體が民心を得るにあるだけに、餘程考へねばなるまい。

先づ北方より

廣い支那が一時に安定を得るといふことは却々困難で、何處か最もやり易い部分から、先づ治めて行くことが必要である。それに支那人は長い間の日本の遣り方に疑問を有つてゐるか

ら、口で言つても却々信用せず、實際にこれを示す必要がある。其のためにも何處かに巧く治つた場所が出来ねばならぬ。最近北京の附近に模範縣が出来たといふ話だが、誠に結構なことである。私は北支と中支とを度々視察した結果として、どうしても先づ北支から手を着けた方が樂なやうに思ふ。それには種々理由もあるが、其の主なる一、三を擧げて見よう。

第一は北支と中支との人氣の相違である。北支那の民衆は、中支南支の民衆に較べると、人間が一體に溫順しい。それに不言實行の方で、南方人見たやうに理窟を云はないし、北支は度々外來民族から征服されたことがあるだけに、民衆の反抗心が少く、思想系統からも、善政の下に安居樂業する傾向がある。然るに民國後になつて、南方人が多く北方に來り、政治、經濟、文化の中樞は南方人に占められ、殊に北京は學問の府として數萬の學生がとゞに集まり、從來の北方人と全く異なる空氣を造り上げてしまつた。かくて大正八年からの排日運動も、昭和十一年から起つた抗日も、すべて北京の學生が中心となり、これが北支の各地方へ傳はり、天津、太原、濟南又抗日の府となつた。然るに今回の事變により、是等抗日學生は前にも述べたやうに悉く南方に去るか、或は共產軍に投じ、其他の抗日系の分子も多く南に行つたので、北に残つたのは溫順しい連中で、北方の空氣は又以前に復したために、仕事は非常に樂になつた。

第二は南方の要人運は殆ど國民政府に入つて居るために、國民政府と共に武漢に去り、今又

湖南、四川に去つたために、一流の人物は殆ど残つてゐないのであるが、北方には從來からの北京政府の要人運が残つてゐるが、彼等は南方に行けず、とにかく北方で何んとかしなければならぬ。従つて現在の臨時政府の要人を見て、とにかく一流の人物が揃つてゐる。又在野にも人物は少くないので、何んとかなりさうである。

實際廣い支那のことで、何十年も亂れに亂れて却々治まらなかつたのであるから、それを急にどうしようとするのも出来まいし、どこか一部分だけでも巧く行けば、それが自然に擴がつて來ることになるだらう。さうするとそれには北支那が手つ取り早く行くことは上に述べた通りである。種々と北支那の要人運に會つて見ると、南方で長期抗戰を叫んでゐるに拘らず、この儘では行かぬ。何んとかせねばならぬといふ考へはあるやうで、日本と協力したい氣持ちは十分に動いてゐるやうだが、たゞ日本が支那をどうする積りか、其の眞意が分らないので困つてゐるといふ様である。此の機運に乗じて、日本としては速に其の方針を決定すべきであらう。

文化建設

文化といへば何だか愈を要しない閑事業のやうに見られ、事變といふやうな慌しい動きの際

には、とかく取り除かれる傾向があるが、實はこれが最も緊急で大事なことである。支那の民衆の氣持さへ變つて來れば、政治工作と經濟工作も極めて樂であるが、それが變らない以上は、政治經濟建設も一寸手がつかない。文化建設にも種々あるだらうが、先づ學校について述べて見るに、從來支那の學校は大學專門學校は北京、上海を中心としてゐたが、北京の大學は市内及び郊外にあり、上海の大學も郊外にあり、英佛租界には殆んどなかつた。然るに今回の事變では是等の學校の多くは閉鎖され、未だ開校の運びに至らないが、こゝに一つの驚くべき現象が起つてゐることである。それは上海にあつた支那の大學が、事變後すべて郊外から英佛租界内に移轉し、こゝに假校舍を造つて授業を再開し、一部の學校は本校舎を造らんとしてゐる。従つて北方の學生の大部も南に去り、こゝに上海外國租界は支那學生の巢窟となつた。然るに日本軍の力が全然及ばず、支那政府の力も及ばず極めて安全なる外國租界の中にあり、その外國租界が日本に好意を有たない英佛の手にありとすれば、そこで行はるゝ教育が、決して日本に有利なものでないことは明かである。殊に抗日學生の集りであり、抗日持久戦の最中に於てをやである。支那に於ける長い間の學生運動から見て、思想戰宣傳戰に於て、學生が如何に大なる役割を務めて來たかといふことは、今更説明の必要もないことである。其の學生を上海の英佛租界内に集中させたまゝにして置くといふことは、今後の工作の上には決して有利なことでは

はなく、何とかして北方でも速に學校を復活し、學生を健全に教育する必要があるだらう。天津では上海と同じ傾向を有し、學校が英佛租界内に移轉の傾向にあり、北京の抗日系學校は多く閉鎖され、眞面目な部分も多く復活され、學生も集りつゝはあるが、未だ十分とはいへない。

新聞も從來は支那新聞が大勢を支配し、其の他には外字新聞の勢力これに次ぎ、邦人新聞は微々として振はなかつた。然るに事變の結果は北支からも中支からも、支那新聞は殆んど驅逐された。其の結果は租界に據る外字新聞が自然に勢力を得るに至つた。ところが外字新聞は單に反目的であるだけでなく、第三國新聞であるために全く手が出せない。所がこれに對抗すべき日本新聞は全く貧弱で、北でも南でも太刀打が出来ない。それは外字新聞の讀者は主として支那人であるが、邦字新聞の讀者は邦人である。そこに言論の指導機關として支那字新聞の復興が必要となつたので、北支でも中支でも漢字新聞が造られたが、すべては軍の統制下に置かれ、新聞の數も一、二に減少されて來た。此の方法は統制は最も完全ではあるが、其の反面に、支那人はこれを日本の御用新聞として餘り讀まないし、讀んでも其の記事を十分に信用しない。従つて將來如何なる方法を探つた方が宜いかといふことは、十分研究するべきものである。

新聞と共に宣傳工作に重要なものはラヂオである。日本軍が速く支那軍を奥地に擊退したに拘らず、國民政府側のラヂオが戦線を越えて速く後方、支那全國に電波を以て支配力を及ぼし、

民心を動かしつゝある効果は、過去一箇年半を通じて實驗された所で、ラヂオの効果は恐らく新聞以上の働きをして來たものと思はれる。幸に南京、漢口のラヂオは無くなつたし、長沙のラヂオは大火でどうなつたか分らないが、相手が不利に陥つたのに乗じて、ラヂオ放送の建設が必要である。北京では既に放送局が設置されてゐるが、完全に相手の放送を封じ込むことは出来ないで、要するに放送戦で勝たなければならぬ。現在の所では東京の中継放送で、支那語講座が加はつてゐる位だが、支那側に對する放送陣をどう整備するか、放送局も北京、漢口、廣東と置く必要があるだらう。

映畫は支那では特に必要である。「麥と兵隊」の中に、日本側で地方代表を集めて宣傳ビラを頒つた所が、それで鼻をかんだと書いてあるやうに、支那人の大部は文字を知らないから、文字による宣傳は大した効果はない。汽車の中にも、家の壁にも、電柱にも、電車にも、「防共反蔣」と「弭兵救民」「日華提携」のポスターや宣傳文字が書かれてゐるが、果してこれがどれだけの効果があるものか、中央公園には目下反共展覽會が開かれてゐる。一寸覗いて見たが、ポスターにはスローガンが書いてあるし、各種の漫畫もあつて、支那人が吞氣な顔して見てゐる。文字宣傳の困難なことを知つた國民革命軍では、北伐戦に際しては虚んに漫畫を使つて大衆に訴へようとした。これは文字宣傳よりも大衆的ではあるが、大した意味を有たせることが

158

出來ず、理解を與へることも不十分である。そこに新なる宣傳手段として映畫の價値が認めらるゝに至つた。支那の映畫界は日本に比較しては未だ遠く及ばないが、とにかく近年非常の進歩發達を遂げ、上海を中心として主なる撮影所三箇の外に數箇のスタジオあり、近年主として發聲映畫を造つてゐるが、製作費が安く、其の割に収入は多いので、營業はどうかやら立つて行つた。然るに今回の事變で上海のスタジオが破壊され、映畫關係者が四散したので、問題は今後の映畫の再興を如何にするかにある。映畫館は天津、上海、廣東等の大都市には相當の館數を有し、其の他の各省内部には未だ發達してゐないが、是等殘留せる映畫館は殆んど西洋物の輸入によつて息を繼いでゐる有様だし、日本租界内にあるものは日本人相手の日本物を入れてゐる。そこで問題は支那映畫の復活であるが、上海のスタジオが潰滅した以上、北支に新しい支那映畫を造る必要がありはしないか、北支は天氣が良くて空氣は乾燥し、映畫製作には最も適してゐるのと、背景としても北京の宮城、萬壽山、西山、萬里長城あり、或人は青島がスタジオには最も良いともいつて居るし、日本の背景ではどうも國際的映畫は造り難いが、支那ならは國際的のものが出来るし、従つて映畫は次の三つの役割を果すことが出来る。

159

一 支那大衆に對する宣傳、現在映畫館は大都市を除いては少いが、機械とフィルムさへあれば、民衆を集めて映畫を見せることは簡單で、田舎の物珍らしい支那人はいくらでも集つて

来るだらうし、口でいっても信用しない支那人でも、映畫で實狀を示せば信用するだらうし、百の説法に優ること請合ひである。

一 日本國內に對する宣傳、日本國民は海外支那の實情を知らない。これを知らせるには映畫が最も良い方法である。最近支那の映畫が日本にも紹介されるものがぼつ／＼あるが、もつと支那の實情をはつきりと大衆的に各種の角度から知らせる方法を採り、これにより正しい輿論が生れ、正しい輿論から正しい對支政策が出て来るやうにすれば宜いのである。

三 今回の事變は、或意味からは、寧ろ支那を舞臺とした對國際問題である。従つて對外宣傳も非常に必要である。然るに支那の背景は國際商品としての映畫を造るに適してゐるから、輸出用の映畫を造つたらどうかと思ふ。これにより列國の正しい認識を深め、外交上益する所が決して少くあるまい。

支那に於ける映畫事業をどうするか、現在河北に於ける映畫は軍の統制下にあるが、映畫としての宣傳効果を十分に發揮せしむるためには、宣傳映畫といふことが分らないやうに、極めて巧妙に仕組まれ、識らず知らずの間に、宣傳の目的を達するやうに仕向けて行くことが必要である。それには民間の専門家にやらせることが一つの條件であり、次には日支合辦により日支双方の特長を十分に發揮したらどうかと思ふ。日本からは技術、機械等を供給し、支那側か

らは俳優其他を供給すれば宜い譯で、演技や計畫、營業宣傳等は支那側に相當の長があると思はれる。今すぐに着手すれば、事變で四散した映畫關係者を集めることは困難ではない。要するに文化工作には今後大なる注意と努力とが拂はるゝ必要があると共に、従來の遣り方についても大いに考ふべき點がある。即ちもつと民間の専門家に任せることが必要である。

農 業 建 設

天津と北京との中間にある今夏、更に遡れば昨年夏の洪水からの水溜りは、夏頃に較ぶれば稍々狭くはなつたが、楊村附近の如きは渺茫として一大湖沼をなしてゐる。一面に葦の枯れた水面を眺めると、日本から初めて來た人々は誰もこれが如地だとは思はないだらう。今年は割合に暖くはあるが、それでも既に薄く結氷してゐるから、來年の作付も覺束なく、三年越の無收穫では如何に呑氣な支那人でも、離散する外はない。中支は今年に豐作で、米が百斤(約我が一俵)五元だといふが、北支は能く分らないが、中支程ではないやうに思はれる。此の農村が復活しない以上、經濟工作も手に着かないが、治安工作も巧く行かぬ。北支で治安を紊してゐるのは匪賊が數に於て最も多いが、匪賊は主として生活難から來るので、農民の生活が安定すれば匪賊は自然減つて來て、治安も良くなるだらう。經濟工作からいへば、支那の産業は農